

2026 年度公益社団法人小さないのちのドア事業計画

2026 年度基本方針

公益社団法人小さないのちのドアは、予期せぬ妊娠 24 時間相談を開始して今年度で 8 年目を迎えます。また、頼る人のいない妊産婦の生活自立支援を始めて 6 年目となります。この数年の間にも、私どもを取り巻く状況には様々な変化がありました。

民間の力だけで始めたこれらの事業ですが、次第に公的事业として位置づけられるようになり、2024 年度には児童福祉法改正施行に伴い、法定事業である「妊産婦等生活援助事業」として兵庫県から受託することができたことは大きな出来事でした。

公的事业となったとはいえ、経済的には公的資金は運営費全体の約 5 割にとどまり、ほかはご寄付に頼らざるを得ない状況であり、安定した財源の必要性を改めて痛感しています。

日々の業務においては、これまで増加を続けていた相談件数が 2025 年度は減少に転じました。また相談の中でチャット GPT など AI という言葉が聞かれるようになり、相談件数減少の一因ではないかと推測するとともに、AI の影響についても今後注視していく必要があると感じています。

また兵庫県からの委託事業である Z 世代へのプレコンセプションケアは 2025 年度に 2 年目を迎え、講演数は昨年より増加しました。2026 年度受託すれば今後も依頼数は増加するものと思われます。

Musubi への入居者数は増減があるものの、入居者がいない日はありません。しかし新生児の殺害遺棄事件は後を絶たず、私どもの存在を必要としている女性がまだ社会の中に多くいることを考えると、さらなる広報の必要性を感じています。

また、入居者の退居後の受け皿の一つとして準備を進めている妊産婦ホストファミリー事業ですが、2025 年度の研修では 31 名が受講されました。今後さらに研修の機会を設け、実際の運用につなげていきたいと考えています。

さらに、私どものかねてからの願いである「全国に質が担保された妊産婦援助事業が広がること」についても、こども家庭庁の補助事業である『特定妊産婦等支援機関ネットワーク形成事業』として動き始めています。私どももこの働きに参画し、制度の充実に寄与していくことができればと願っています。

このような社会状況と事業環境の変化を踏まえ、対象者への支援体制、職員の働き方体制、広報体制の強化を視野に入れ、以下の 7 項目を 2026 年度の基本方針といたします。

2026 年度基本方針項目

1. 妊娠した女性と胎児、新生児のいのちを守る砦である予期せぬ妊娠相談の充実を図り、相談者の人生に寄り添う心ある相談支援を継続する
2. 生活支援において、安全で安心できる生活環境を整え、心身の回復と新たな人生への力を育む場を提供する
3. 夜の街や若年女性へのアウトリーチおよび SNS 等の広報啓発を強化し、予期せぬ妊娠の予防と早期介入につなげる
4. 性教育及びプレコンセプションケアを推進し、若い世代が自身のからだと人生を大切にする力を育てる
5. 妊産婦ホストファミリー事業を具体化し、地域社会の中に支援の居場所を広げる

6. 特定妊産婦等支援機関ネットワーク形成事業への参画を通して全国の支援団体との連携を強化し、制度の質向上と政策提言に取り組む
7. 寄付・ボランティア・企業・地域団体との連携を通じて支援の輪を広げ、安定した寄付基盤の形成と温かな社会の循環を生み出す

私どもの理念であります、最も小さいのちである胎児と新生児、また弱い立場にある女性が最も大切にされる真に豊かな社会を目指して 2026 年度も活動を前進させて参ります。

2026 年度事業計画

1. 妊娠葛藤相談事業

妊娠した女性と胎児、新生児のいのちを守る砦である予期せぬ妊娠相談の充実を図り、相談者の人生に寄り添う心ある相談支援を継続する

全国の妊娠 SOS 相談窓口はここ数年で数だけでなく体制も充実してきている。全国各地に相談しやすい場所が増えることで相談の分散も期待できるが、依然として相談ニーズは高く 24 時間体制で対応している窓口はまだ限られている。

現在、相談支援体制は医療職を中心とした 10 人体制で実施している。質の担保を図るため、メールや SNS 相談はダブルチェック、トリプルチェックを行い、丁寧に言葉を選びながら返信している。また電話相談についても、気になるケースについては振り返りを行いよりよい声かけを検討しながら、どのような相談であったとしても、次の安心安全な性行動や人生の選択につながるようにひと言を大切にした支援を行っている。

相談の多くは、緊急避妊に関することや生理の遅れ等による不安の相談が半数を占めているが、2025 年度は AI の影響からか妊娠確定後の相談が増加傾向にある。

緊急事案については、迅速かつ慎重に関わりながら医療機関等につなぎ、2026 年度もすべてのいのちが守られるよう相談体制の強化に努める。またスーパーバイズの導入や、1～2 か月に 1 回の緊急対応研修を実施し、外部研修も活用しながら相談対応力の向上を図る。

2. 居場所支援事業

生活支援において、安全で安心できる生活環境を整え、心身の回復と新たな人生への力を育む場を提供する

現在、生活支援・自立支援事業では

- 妊婦・産婦ユニット 4 室
- 母子ユニット 3 室
- 緊急対応 2 室
- ステップハウス 4 室の計 13 室を運営している。

マタニティホーム Musubi は 2020 年の開設以来、これまでに 84 人の妊産婦が生活してきた。妊産婦が安心して妊娠・出産・育児を迎えることができる環境を整えるだけでなく、心身の回復と新たな人生への力を育む場となることを目指して支援を行っている。

情報共有の円滑化と個人情報保護の徹底を図るため、2025 年度は kintone を活用した情報共有システムの本格運用を開始し、支援の質の向上を図っている。

2026 年度は部門ごとにリーダーを置き、支援体制・役割分担を明確にし、生活支援、母子支援、心理支援などそれぞれの専門性を活かしながら、対象者の持つ力を引き出す支援を行っていく。

3. アウトリーチ・広報啓発活動

夜の街や若年女性へのアウトリーチおよび SNS 等の広報啓発を強化し、予期せぬ妊娠の予防と早期介入につなげる

これまでの相談や支援を通して、家庭に居場所がなく夜の街をさ迷う若年女性が一定数存在することが明らかになっている。その背景には成育歴の傷つきや人間関係の困難などが複雑に絡み合っている場合が多く、性犯罪や搾取に巻き込まれるリスクも高い。これらのことから、より積極的につながりを増やしていくため 2022 年からアウトリーチ事業を始めているが、2025 年度は初めて大学の学園祭にブース出展し性教育等を行った。

2026 年度は三宮、尼崎、姫路など県内主要都市でのアウトリーチを強化し、居場所カフェやヘルプカード配布などを通じて支援につながる機会を増やしていく。

また認定 NPO 法人 D×P のユースセンター事業に連携団体として協力し、月 2 回程度の相談支援を継続する。

4. 性教育・講演事業

性教育及びプレコンセプションケアを推進し、若い世代が自身のからだと人生を大切にする力を育てる

性教育グループ「いのち語り隊」は 2000 年から活動を続けており、2022 年よりマナ助産院から小さないのちのドアに拠点を移し活動を継続している。

Z 世代のプレコンセプションケアは若者が自分の身体や人生について考える重要な機会となっており、学校や専門職研修からの講演依頼も増加している。

2025 年度は 174 回の講演を実施し、約 21,000 人が参加した。2026 年度も講演活動を継続し、いのちや性の大切さについて語り自己肯定感を高める講演を実施しながら、兵庫県内でのプレコンセプションケアの普及も目指していく。

5. 妊産婦ホストファミリー事業

妊産婦ホストファミリー事業を具体化し、地域社会の中に支援の居場所を広げる

2022 年からホストファミリー研修を開始し、2025 年度の研修には 31 名が参加した。マタニティホーム Musubi はこれまで多くの妊産婦の居場所となってきたが、退居後の生活の中で地域の中に安心できる居場所を持つことの重要性が明らかになっている。

2026 年度は妊産婦ホストファミリーの実際のマッチングを行い、事業の本格運用を開始する。

6. 連携・政策提言

特定妊産婦等支援機関ネットワーク形成事業への参画を通して全国の支援団体との連携を強化し、

制度の質向上と政策提言に取り組む

2024 年の児童福祉法改正施行により、妊産婦等生活援助事業が法定事業となり特定妊婦支援の制度整備が進んでいる。2025 年度からは子ども家庭庁補助事業として特定妊産婦等支援機関ネットワーク形成事業が開始された。小さいのちのドアも「一般社団法人くると」を通してこのネットワークに参画し、支援の質向上と制度改善に向けた政策提言を行っていく。

7. 支援の輪を広げ、困難を抱える女性や児の支援につなげ、温かな社会の循環を作る

小さいのちのドアは 2018 年の開設以来、多くの支援者に支えられて活動を続けてきた。2022 年には公益認定を受けたが、現在も運営費の約 5 割は寄付によって支えられている。寄付は単なる財源ではなく、支援を受ける女性たちにとって社会からの応援メッセージとなる。

2026 年度は寄付者の拡大、ボランティアの参加促進、企業や地域団体との連携を通して支援の輪を広げ、温かな社会の循環を生み出していく。

2026 年度事業計画一覧

事業名	事業内容
会議の開催予定	
社員総会	1 回（6 月頃）
理事会	年 4 回（6 月、9 月、12 月、3 月頃）
連携会議	年 2 回（6 月、3 月頃）
全体会議	月 1 回
リーダー会議	月 1 回
小さいのちのドア支援事業	
相談支援	思いがけない妊娠やもう育てられないと追い詰められた女性のための相談支援を継続する。24 時間 365 日電話や来所、メール、SNS などあらゆる方法でいつでも相談することが出来る。2026 年度も引き続き兵庫県・神戸市の妊娠 SOS としての相談事業も実施していく。
同行支援	ドアに相談に来られた方の病院受診や行政窓口、関連団体への同行支援を行い、必要な支援につなげていく。妊娠から出産、産後に至るまで女性と小さいのちが前向きに歩める一歩を踏み出せるまでサポートを行う。
妊娠出産支援	妊婦健診や出産の支援と、準備クラスなどを開催し、産前産後安全に安心して過ごしていけるように支援を行う。 費用面での支援が必要な場合は、兵庫県の事業もしくは小さいのちのドアから支援を行い、安心して出産できるように経済面でも整えていく。
来所支援	小さいのちのドアに来所するハードルを少しでも下げられるように、必要な方には来所時の交通費支援を行う。
生活支援	マタニティホーム Musubi とステップハウスを運営し、行き場を失い頼ることのできない妊産婦のために、産前産後の期間、安全で安心できる温かい場の提供を行う。22 年より兵庫県の事業を受託しており、今年度も関係機関と

	連携しながら生活を支えていく。
自立支援	小さいいのちのドアにつながった妊産婦が、幸せにこれから生きていくためにも、自立できる環境づくりを支援していく必要がある。 就学や就労支援を、シングルマザーを応援している企業や団体と連携しながら自立を目指していく。社会福祉法人経営者協議会やその他関係機関と連携しながら、社会における自立まで支える仕組みづくりがなされるように、より一層の連携強化を図りたい。
妊産婦ホームステイ	関わる妊産婦の多くは家族との関係不和、機能不全の中で帰る場所のない方が多い傾向にあるため、マタニティホームが一つの帰る場所になればと活動してきたが、社会の中にそれぞれの第二の我が家を作られ、社会全体で支える仕組みづくりを目指し、妊産婦ホストファミリー支援を開始しいつでも帰れる我が家を社会の中に創っていく。 妊婦は妊娠中にホストファミリーとマッチングを行い、交流を図りながらホストファミリーそれぞれのかたちに合わせてサポートをしていただく。 2026 年度は事業設計を具体化し、実務研修や演習等も取り入れ、本格実施できる体制を整えていく。
アウトリーチ活動	居場所カフェを三宮や尼崎、姫路など兵庫県下の主要都市部で開催し、行き場を失い夜の街をさ迷う女性たちの支援、また大学の学園祭等に出店し、周知の場としてまた性教育の場として活用していく。 また認定特定非営利活動法人 D×P のユースセンター事業に協力して、ユースセンターでの相談事業を月 2 回程度実施していく。また必要に応じて病院受診等の同行支援も行う。
性教育活動	いのち語り隊の働きをさらに充実させつつ、Z 世代に向けたプレコンセプションケアを兵庫県内全高校・大学で実施できるように性教育を推進していく。
里親・縁組相談支援	里親制度、特別養子縁組への理解と支援の輪が広がるように啓発を行いつつ、興味のある方や希望者を中心に勉強会を実施。必要時は特別養子縁組団体や里親支援団体につないでいく。
スタッフ研修会	定期的なステップアップ研修や養成研修を実施し、質の高いケアが実施できるようにスキルアップを目指していく。
ボランティア研修・感謝会	ボランティアとして活動に参加してくださっている方や、希望者向けに研修や感謝会を実施し、継続的に支援をお願いしていく。
いのちのセミナー開催	小さいいのちのドアの活動や困難を抱える妊産婦への支援などに興味関心のある方を対象に、「いのちのセミナー」を定期的で開催していく。
積極的周知・広報活動	支援の必要な女性が支援につながるができるように、SNS やメディアなど積極的に活用していく。 また産婦人科などへのポスター設置の協力とヘルプカードの設置を 24 時間開いているネットカフェ、ファミリーレストラン等設置できる場所を増やしていく。

